

ギリシャの国債発行について

発表日：2010年3月5日(金)

～市場との緊張関係は今後も続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

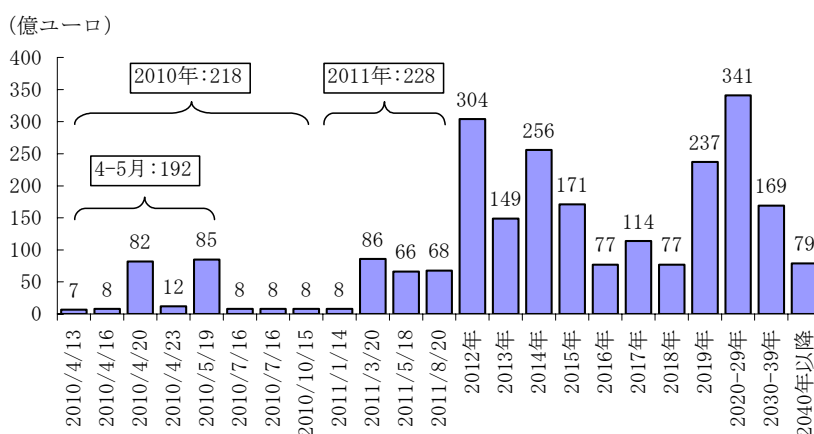
主任エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

3月4日にギリシャの公的債務管理庁は、2020年6月19日を満期とする10年債の販売を開始した。市場の期待心理の醒めやらない追加赤字削減策の発表翌日に国債発行に踏み切ったことは、自力での資金調達を目指すうえで絶好のタイミングであったと言えよう。ベンチマークのミッドスワップレートに対する上乗せ金利は300bpsでクーポンは6.25%。これは昨年3月と6月に発行した10年債のクーポン(6.00%)を上回るものの、2月2日に発行した5年債の上乗せ金利(350bps)を下回る。発行予定額は50億ユーロ。

クリストドロフ債務管理庁長官の話とする報道によれば、締め切り時の注文は160億ユーロを超えた模様。4・5月に必要となるロールオーバーの金額は約200億ユーロで(図)、新規の財政赤字の埋め合わせ分と合わせて年内に530億ユーロ相当の資金調達が必要と見られている。旺盛な需要が確認されたことで、4月と5月にも数十億ユーロ規模の追加調達が行われる公算が大きい。

償還日別のギリシャ国債・政府短期証券の残高



出所：Hellenic Public Debt Management Agency

ギリシャのパパンドレウ首相は、5日にドイツのメルケル首相、ユーログループ(ユーロ圏の経済財務相会合)のユンケル議長、7日にフランスのサルコジ大統領との会談を予定している。今回、ギリシャ政府が自力での国債発行に踏み切ったことで、これらの会談を経てギリシャの支援策が具体化されることは、ひとまず無くなったと考えられよう。EUからしてみれば、ギリシャ政府が自力で資金調達してくれるのに越したことはない。問題は4・5月のローラーオーバーを乗り切るためには追加で150億ユーロ相当、その後も年後半に数百億ユーロ、来年・再来年も数百億ユーロの調達が必要となることだ。今後、2010年の計画の進捗状況が明らかになっていく過程で、さらには2011年以降の財政再建へのギリシャ政府の取り組み姿勢が確認されていく段階で、計画通りに赤字削減が進んでいないことが認識された場合には、市場の不信感が再燃する恐れがある。今後の追加の国債発行において、万が一、札割れの危険が高まった場合などには、EUは具体的な支援に踏み切るかどうかを検討することになるだろう。アテネでは4日、公務員給与削減に反対する約200人の組合員が財務省や予算局のビルを占拠した。こうしたストライキの激化など国内からの反発に加え、厳しい歳出削減が及ぼすデフレ圧力によって税収下振れの恐れがあるなど、財政再建への道のりは平坦ではない。ギリシャ政府と市場とのせめぎ合いは長期化の様相を呈してきたと言えよう。

以上